

島根県高等学校文化連盟小・中・高校連携事業

～「吟詠剣詩舞研修会」を通して学んだこと～

立正大学浜南高等学校 2 年生 松田 星良さん



この度、私が在籍する立正大学浜南高等学校で開催された「吟詠剣詩舞研修会」を受講させていただき、大変良い勉強になりました。

特に幼稚園児や小学生、中学生、高校生が披露した詩吟や詩舞、剣舞は、とても華麗で勇壮な舞台表現をされており、私たちが授業で習った漢詩を発表されたときなどには、とても関心をもって鑑賞することができました。

また、講師の先生方が袴を着け凛々しく舞う模範演技を鑑賞して、詩吟の素晴らしさに魅力を感じました。

日本の心、日本人の心を、引き締まった舞の動きで表現する吟詠は、漢詩や和歌を吟じる「詩吟」と吟に合わせて剣や扇を手に舞う「剣詩舞」が融合した日本の伝統芸術であり高い価値を持つ立派な伝統芸道であつて、

今後も大切に守っていくべきだと考えます。

そして、今日の現代人の感覚に合うような魅力ある工夫と、今回のような様々な行事を計画されることによって、私たち高校生にも取り入れられると思います。

今回、このような研修会を聴講させていただくことができ、感謝申し上げます。

先にも申し述べましたが、日本の伝統芸術が守られて、日本の素晴らしさを世界に発信できるように私たち高校生も頑張っていきたいと思っております。

詩吟の若年層に向けての取り組みについて

松江ブロック組織部長 菊田 爾風



松江ブロック会員の皆様方には、平素会員増強運動につきまして多大なるご理解と

協力をいただいておりますこと、紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

本年は「第60回記念・清吟堂吟剣詩舞道大会」が清吟堂の本部がある松山市内で開催されることろであります。その大会までに3,000名の会員達成に向け数々の施策が行われており、そのひとつでもある5カ年計画等の施策が数年前から実行されており、お陰さまで会員増強達成にはあと歩のところがなっております。

松江ブロックとしても、その大きな目標に向けて日々努力をしておりますが、なかなか一朝一夕にその目標が達成できないのが現状であり、「1支部1人」のスローガンで一人お一人を根気よく、また詩吟の「面白さ、楽しさ、やり甲斐等」を進めていく地道な努力が必要かと思えます。

ただ今の現代社会では、少子高

齢化と称し若年層がこの先どうなるかとの心配される傾向も少なくないようではありますが、私たち「詩吟」をこの上もなく愛好する者とすれば、一刻も早く次世代を背負う若年層に「詩吟」の良さ（礼節、健康面等）、歴史（作者、生い立ち等）、教養（漢詩、短歌、俳句等）をしつかりと伝達していくのも私たち成人の役目とも感じます。

そのような時の昨年（平成24年）11月17日に若年層（幼稚園児、小学生、中学生、高校生）を対象にした「幼、小、中、高等学校連携事業・吟剣詩舞道合同研修発表会」が立正大学浜南高等学校を会場に開催されました。皆様方には記憶に未だ新しいかと存じますが、平成19年8月に「全国高等学校総合文化祭・吟剣詩舞道大会」が安来市内の広瀬中央公民館で開催されました。

その大会で、安来、松江両ブロックの指導者、先生方の熱心なご指導のもと安来情報科学高校、安来高校、飯南高校の生徒の皆さんが、厳しい練習、勉強、指導にもかかわらずその苦境を見事乗り越えて

吟剣詩舞を全国の高校生と共に披露していただきました。

その後、鳥根県としては、成功した後の伝統文化を継承する取り組みに今ひとつ時間がかかりすぎ、折角の吟剣詩舞に対する高校生等若年層への盛り上がりが見られな感もありました。

今回、鳥根県高校文化連盟からの通達で「吟剣詩舞部門」として立正大学浜南高等学校が担当校として選ばれたのですが、幸いにも同校には清吟堂吟友会松江ブロックの会員の方が勤務されておられる関係で、この度の研修発表会の企画、準備そして各方面（小、中、高の学校関係、県下の清吟堂7ブロック等）連絡（協力量議、案内等）に当初よりご尽力をいただきました。

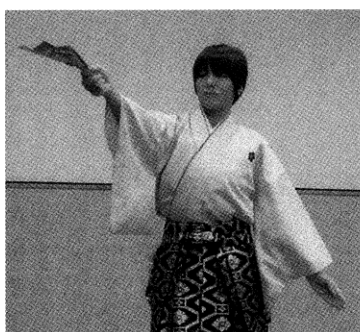
この会を催すに当たっては、申すまでもなく鳥根県吟剣詩舞道総連盟の後援をいただくと共に、紫雲館吾妻流鳥根支部のご理解とご協力をいただきました。

現在、鳥根県下では松江、出雲、大田の3ブロックで幼、小、中の児童を対象にそのブロックの先生方に吟剣詩舞のご指導をいただいておりますが、今回の研究発表会を契機に吟剣詩舞道のこの輪が県下7ブロック全ての地域に広がることを願

うばかりであります。毎年7月に「鳥根県高等学校文化フェスタ」が盛況に開催されておりです。

この機会に、高校生だけでなく、まらず共に広く小、中学生にも発表の場を与えていただき、それぞれが個々の練習、勉強の成果を確かめるための目標となることを望むところです。

こうして私たちが、次の世代を担う若年層に日本伝統文化のひとつである「詩吟」を教え、伝えることも将来の詩吟人口を増やす一因となることを願つてやみません。末尾になりましたが、今回の「合同研究発表会」にご協力をいただいた各学校の児童、生徒の方、講演、実技をいただいた指導者の諸先生の皆様方には、心から感謝とお礼を申し上げます。



中学生による扇舞の実演